



I 第24週の発生動向 (2026/6/8~2026/6/14)

1. 水痘について、中南保健所管内の注意報が解除となりました。
2. 日頃から手洗いや咳エチケット等の基本的な感染対策をお願いします。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「手足口病」です。

最終ページに掲載しています。

II 第24週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

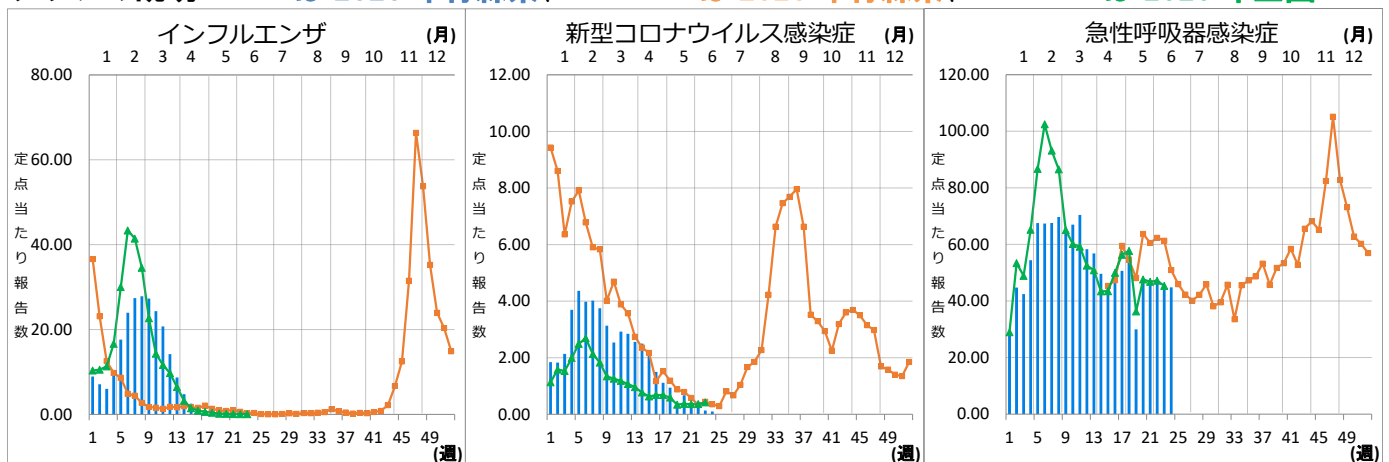
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

は警報、は注意報。「空欄」：患者報告無し。

	東青 (東津軽+青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週からの増減 数	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		
急性呼吸器感染症	インフルエンザ	2	0.18	2	0.20					1	0.11			5	0.10	2
	新型コロナウイルス感染症	2	0.18	1	0.10			1	0.17	1	0.11			5	0.10	-2
	急性呼吸器感染症	723	65.73	340	34.00	360	40.00	227	37.83	277	30.78	358	59.67	2285	44.80	-66
小児科	RSウイルス感染症			1	0.17	1	0.17							2	0.06	1
	咽頭結膜熱			2	0.33	4	0.67			1	0.17	1	0.25	8	0.24	-2
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	17	2.83	8	1.33	9	1.50	8	1.60	12	2.00	4	1.00	58	1.76	2
	感染性胃腸炎	16	2.67	16	2.67	27	4.50	15	3.00	8	1.33	1	0.25	83	2.52	-12
	水痘			4	0.67	1	0.17			2	0.33	3	0.75	10	0.30	-1
	手足口病			3	0.50	10	1.67			1	0.17			14	0.42	-1
	伝染性紅斑							1	0.20					1	0.03	-1
	突発性発しん	4	0.67			3	0.50	1	0.20	2	0.33			10	0.30	0
	ヘルパンギーナ	1	0.17											1	0.03	1
	流行性耳下腺炎															0
眼科	急性出血性結膜炎															0
	流行性角結膜炎															0
																0
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															-1
	マイコプラズマ肺炎										7	7.00	7	1.17	5	
	無菌性髄膜炎															0

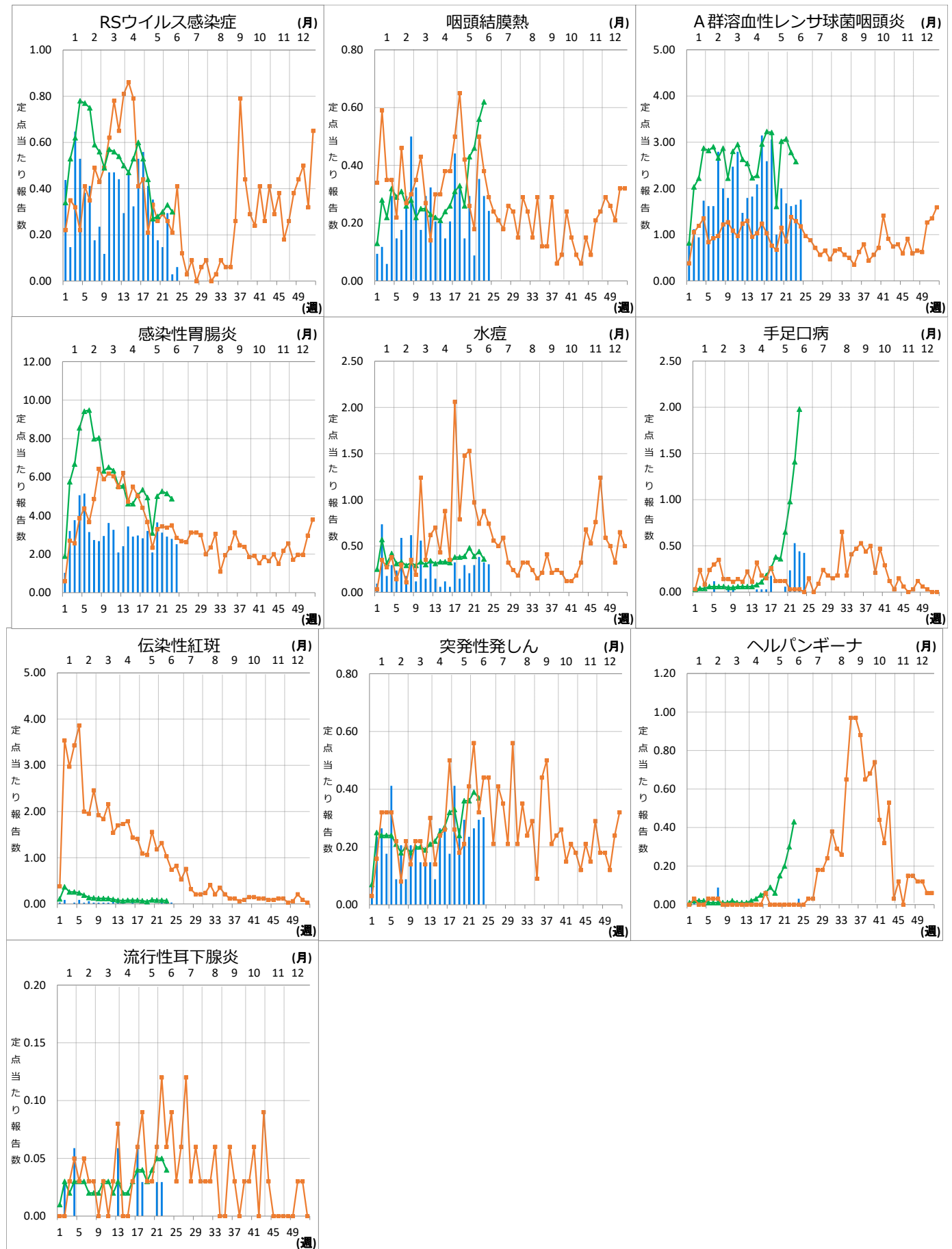
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2026年第24週、ただし全国は前週)

グラフの説明 ← は2026年青森県、■は2025年青森県、▲は2026年全国



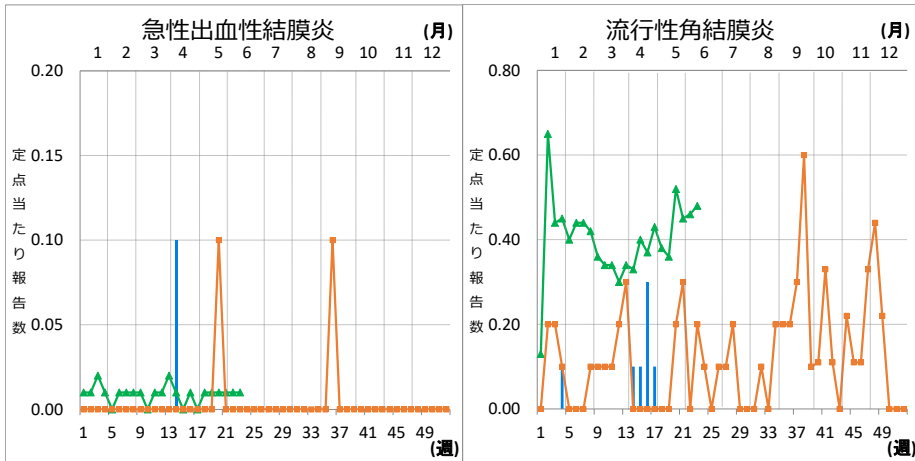
IV 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2026年第24週、ただし全国は前週）

グラフの説明 ← は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



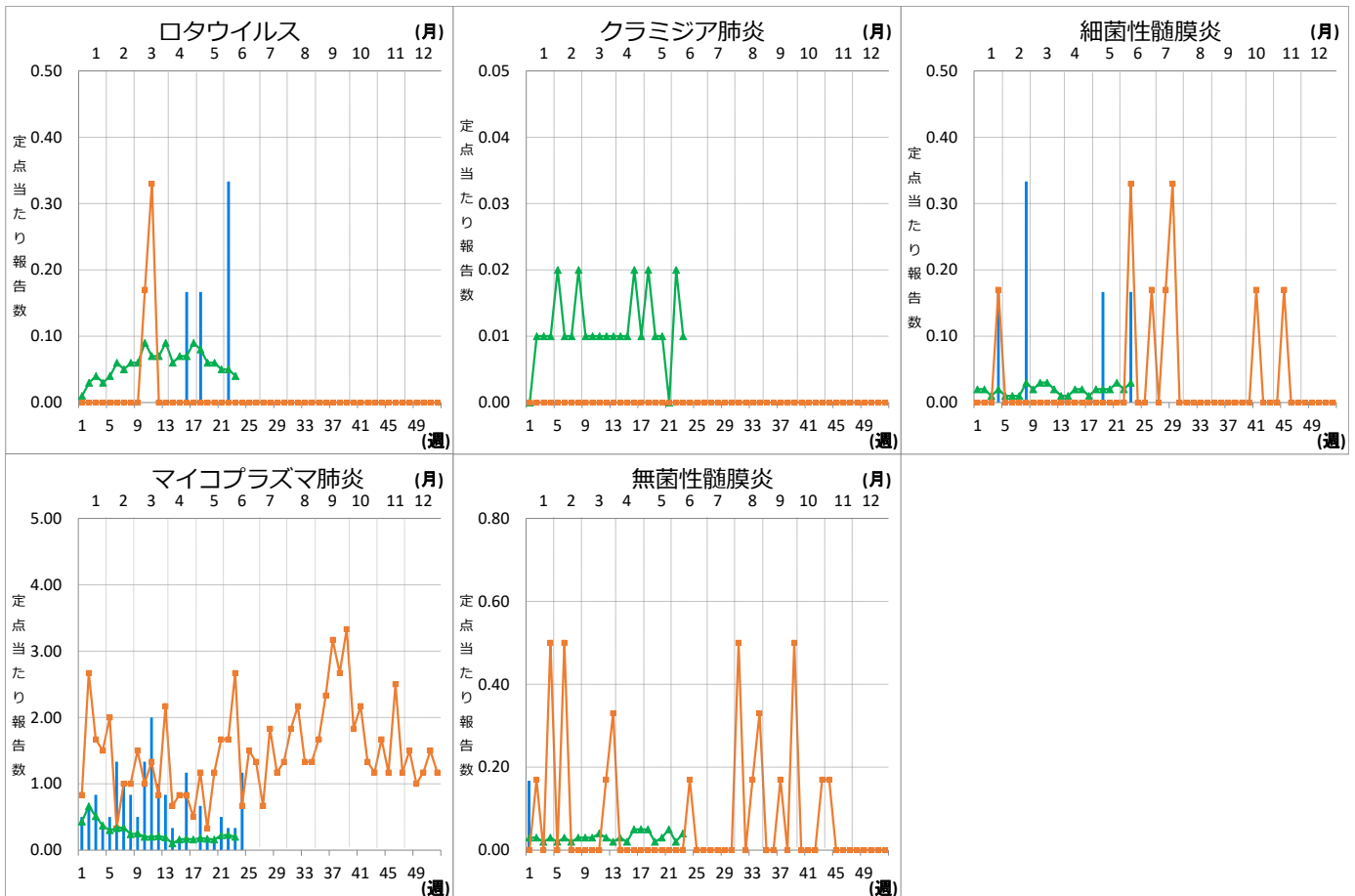
V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2026年第24週、ただし全国は前週）

グラフの説明 ← は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2026年第24週、ただし全国は前週）

グラフの説明 ← は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



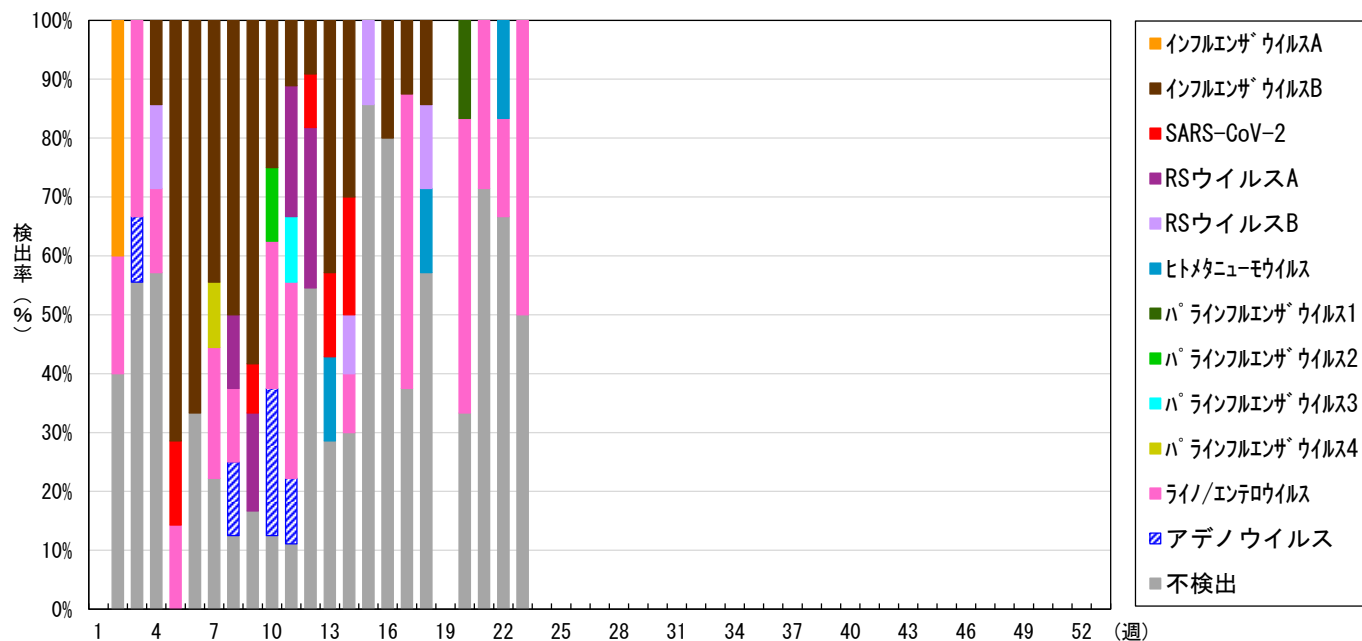
## Ⅶ 急性呼吸器感染症(ARI)病原体検出情報

### (1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2026年第17週～24週)

急性呼吸器感染症	2026年							
	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週
提出検体数	7	7	0	6	7	6	8	5
インフルエンザウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	0
インフルエンザウイルスB	1	1	0	0	0	0	0	0
SARS-CoV-2	0	0	0	0	0	0	0	0
RSウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	0
RSウイルスB	0	1	0	0	0	0	0	0
ヒトメタニューモウイルス	0	1	0	0	0	1	0	0
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	1	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	0	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス3	0	0	0	0	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス4	0	0	0	0	0	0	0	0
ライノ/エンテロウイルス	4	0	0	3	2	1	4	0
アデノウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0
不検出	3	4	0	2	5	4	4	4
検査待ち	0	0	0	0	0	0	0	5

※第17週に提出された検体のうち、インフルエンザウイルスB及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

### (2) 検出された病原体の週別推移 (2026年第1週～23週)



**Ⅷ 全数把握対象疾患発生状況（第24週）**

- ・結核（二類感染症）：上北1人 (2026年計： 38人)
- ・腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）：青森市1人、中南3人 (2026年計： 12人)
- ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症（五類感染症）：青森市1人、中南1人 (2026年計： 4人)
- ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症（五類感染症）：中南1人 (2026年計： 7人)

**Ⅸ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2026年第21週～2026年第24週）**

週	東青 (東津軽保健所+ 青森市保健所)	中南 (中南保健所)	三八 (三戸保健所+ 八戸市保健所)	西北 (西北保健所)	上北 (上北保健所)	下北 (下北保健所)
21			細菌性赤痢1人		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症1人	
22	侵襲性肺炎球菌感染症1人 梅毒1人	レジオネラ症1人	細菌性赤痢1人			つつが虫病1人
23		腸管出血性大腸菌感染症1人	侵襲性肺炎球菌感染症1人			結核2人
24	腸管出血性大腸菌感染症1人 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症1人	腸管出血性大腸菌感染症3人 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症1人 劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人			結核1人	

**X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）**（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

**全国**（2026年第1週～第23週までの累計）

分類	二類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокクス症	エムポックス	オウム病
累積報告数	6123	37	972	18	7	305	108	7	64	2

分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	回帰熱	コクシジオイデス症	重症熱性血小板減少症候群	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	マラリア	レジオネラ症
累積報告数	1	3	72	2	56	34	128	2	17	795

分類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群
累積報告数	4	221	90	426	9	210	4	69	622	398

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	多剤耐性緑膿菌感染症	梅毒	播種性クリプトкокクス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症
累積報告数	18	261	31	1489	374	62	4901	82	43	43

分類	五類	五類	五類	五類
疾病名	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症
累積報告数	3213	2	525	7

**青森県**（2026年第1週～第24週までの累計）

分類	二類	三類	三類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	A型肝炎	つつが虫病	レジオネラ症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症
累積報告数	38	2	12	3	1	1	1	4	2	7

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	百日咳
累積報告数	1	4	10	6	7	18

**XI 病原体検出情報**

報告はありませんでした。

## Ⅷ 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2026年第24週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第24週	児童・婦人関係施設等	10	上北保健所

2026年報告件数及び発症者数

施設種別	月(週)	1月	2月	3月	4月	5月	6月		7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 (施設別)
		1-5週	6-9週	10-13週	14-17週	18-22週	23週	24週	25週	26週	27-31週	32-35週	36-39週	40-44週	
介護・老人福祉関係施設	件数	2	2	6	2	3	0	0							15
	発症者数	37	44	69	23	42	0	0							215
児童・婦人関係施設等	件数	4	0	1	3	4	0	1							13
	発症者数	92	0	30	73	63	0	10							268
障がい関係施設	件数	1	0	1	0	0	0	0							2
	発症者数	20	0	18	0	0	0	0							38
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0	0							0
	発症者数	0	0	0	0	0	0	0							0
計(月別)	件数	7	2	8	5	7	1								30
	発症者数	149	44	117	96	105	10								521

## 感染症の窓

### 手足口病

手足口病は、子どもを中心に、主に夏に流行するウイルス性の感染症です。2歳以下が半数を占めますが、小学生でも流行することがあります。

感染後、3～5日後に、口の中、手のひら、足底や足の甲等に2～3mmの水疱を伴う複数の発しんが出ます。発熱は発症した人の約3分の1で起こり、38度以下のことがほとんどです。

手足口病の感染経路は、飛沫感染、接触感染、糞口感染（便と一緒に排泄されたウイルスが口に入って感染すること）が知られており、特に、手足口病にかかりやすい年齢層の乳幼児が集団生活をしている保育施設等では注意が必要です。

予防には、流水・石けんによる手洗い、タオルの共用を避ける、排泄物を適切に処理するといった対策が有効です。手足口病が治った後も、数週間にわたり便からウイルスが排泄され、また、感染しても発病しないままウイルスを排泄している場合もあると考えられるため、日頃からおむつを交換した後は、排泄物を適切に処理し、流水と石けんで十分に手洗いをしましょう。

手足口病に特別な治療法はなく、発病しても軽い症状で経過することがほとんどです。しかし、まれに重症化し髄膜炎や脳炎などを引き起こす場合がありますので、経過観察をしっかりと行い、高熱が2日以上続く、嘔吐、頭痛、視線が合わない、呼びかけに答えない、呼吸が速く息苦しそう、水分が取れずおしっこが出ない、ぐったりとしているといった症状がみられた場合は、医療機関を受診してください。

○詳しい情報はこちらをご覧ください。☞ [手足口病\(厚生労働省 HP\)](#)

**感染症対策**

手や足、口の中などに発しんはありませんか？



**夏** を中心に毎年発生します。2歳以下が半数を占めますが、小学生でも発症の発生がみられることがあります。

**感染経路** 飛沫感染、接触感染、糞口感染（便と一緒に排泄されたウイルスが口に入って感染すること）が知られており、特に乳幼児が集団生活をしている保育施設や幼稚園などで注意が必要です。

**治療方法** 手足口病に特別な治療法はなく、症状に応じた対応療法を行います。まれに重症化することがあるため、以下の症状がある場合は、医療機関への受診をご検討ください。

- 高熱が2日以上続く
- 嘔吐する
- 頸を硬がる
- 視線が合わない
- 呼びかけに答えない
- 呼吸が速く息苦しそう
- 水分が取れずおしっこが出ない
- ぐったりとしている

✓流水や石けんによる手洗いをしましょう。  
✓タオルの共用を避けましょう。  
✓排泄物の適切な処理を行いましょう。

電話をかけた場合や後援団体の場合は、このQRコードを参照し、F8000（子ども医療相談センター）にご確認ください。

厚生労働省

厚生労働省リーフレット

